

脳卒中療養の道しるべ

患者さん・ご家族の皆様は、突然の脳卒中の発症により様々な不安を抱かれています。脳卒中治療・療養には大きく3つのステージ（急性期・回復期・生活期）があります。それぞれのステージにおける適切な治療・リハビリテーション（以下：リハビリ）を理解し、患者さんの身体状況やご家族の状況に応じた選択が重要となります。



急性期

発症～約1か月

場所 急性期病院（病棟）

- 救命治療・全身状態管理・検査
- 早期離床、廃用症候群の予防
- セルフケア（食事・整容・更衣・排泄・入浴）の早期自立

リハビリが必要

必要に応じて環境調整

- 介護保険サービス
- 家屋環境等

回復期

発症後約1～6か月

場所 回復期リハビリテーション病院（病棟）

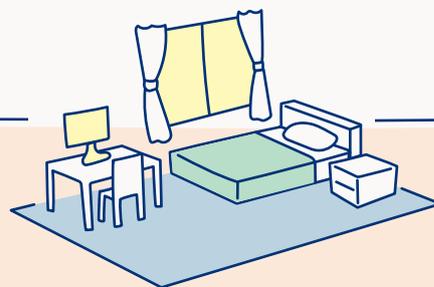
- 日常生活に必要な動作（ADL）向上、機能回復
- 社会復帰・就労等を見据えたリハビリ・支援

生活期

回復期以降

場所 在宅・施設・療養型病院等

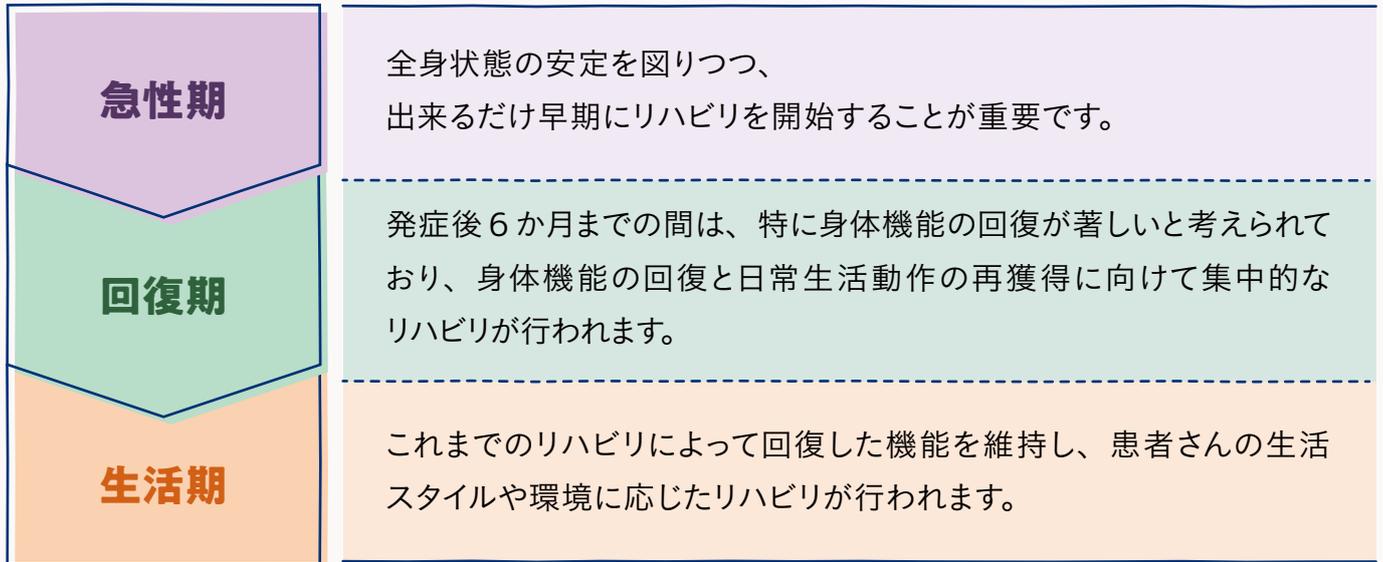
- 自宅や施設、医療機関において、機能を維持するためのリハビリ実施
- 健康管理や生活自立支援、両立支援（就労・就学）、家族の介護負担軽減支援等
- 介護保険、障害福祉サービス、各種福祉制度等を活用



脳卒中後のリハビリテーション戦略

脳卒中は急性期を乗り越えれば安心というわけではなく、後遺症や再発予防など長いスパンで継続して向き合うことが必要となる疾患です。

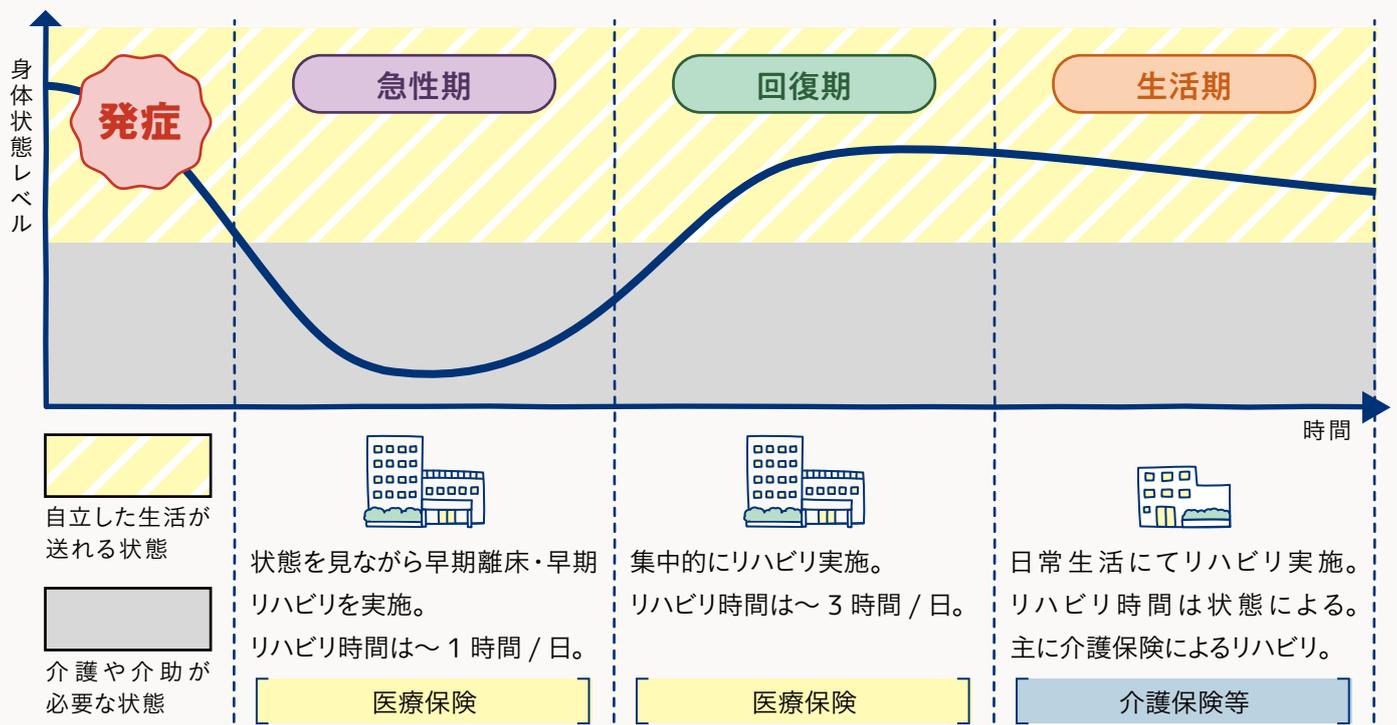
脳卒中を発症してからの身体機能の回復を図1に示しました。3つの段階において、リハビリのボタンタッチを効果的に行うことが、生活自立や社会復帰につながります。



脳梗塞からの回復には長い時間を要することも多く、焦らずに自身の心身状況に合った環境でリハビリを継続することが大切です。

図1

脳卒中を発症した場合の回復段階イメージ



京都府・京都市の 回復期リハビリテーション病棟 MAP

京都府内・京都市内の回復期リハビリテーション病棟を有する医療機関一覧です。(情報は令和5年1月現在)

回復期リハビリテーション病棟(病院)への転院を検討される場合は、主治医や医療ソーシャルワーカーにご相談ください。

京都府

※()の数字は病床数



- ⑮ 左京区：京都大原記念病院 (172)
- ⑯ 左京区：脳神経リハビリ北大路病院 (26)
- ⑰ 左京区：京都民医連あすかい病院 (51)
- ⑱ 左京区：京都近衛リハビリテーション病院 (100)
- ⑲ 北区：京都博愛会病院 (50)
- ⑳ 北区：京都からすま病院 (43)
- ㉑ 右京区：独立行政法人国立病院機構宇多野病院 (55)
- ㉒ 右京区：京都民医連中央病院 (51)
- ㉓ 中京区：がくさい病院 (46)
- ㉔ 下京区：京都武田病院 (60)
- ㉕ 西京区：洛西シミズ病院 (100)
- ㉖ 南区：十条武田リハビリテーション病院 (100)
- ㉗ 東山区：京都久野病院 (60)
- ㉘ 山科区：洛和会音羽リハビリテーション病院 (100)
- ㉙ 伏見区：京都リハビリテーション病院 (64)
- ㉚ 伏見区：蘇生会総合病院 (54)
- ㉛ 伏見区：医療法人健幸会むかいじま病院 (0)
- ㉜ 伏見区：医仁会武田総合病院 (28)



京都府ホームページより作成 (<https://www.pref.kyoto.jp/rehabili/shisetsu.html>)